

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：37131

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11185

研究課題名（和文）認知症初期の人の介護者支援の介入研究-integrated careの視点から

研究課題名（英文）Development of ACP process to support the best end-of-life of elderly people with dementia

研究代表者

馬場 みちえ（BABA, MICHIE）

令和健康科学大学・看護学部・教授

研究者番号：60320248

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、Integrated careの視点をもった医療と介護の切れ目のない実践を明らかにすることであった。コロナ禍により、高齢者への介入プログラムは難しかったが、まず、「認知症よりそう家族の経験と工夫」著書を執筆し、出版した。次に家族介護者より介護支援専門員は、知識に関するリテラシーが高いことから、支援の役割が大きいことを発表した。看護師やCMに対してパーソン・センタード・ケアの理解と実践について、研修と調査を行った。パーソン・センタード・ケアへの実践力は、研修受講と事例検討会参加することが有意に関連していた。また研修を受講することによって実践力があがったことを報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域包括ケアシステムの中で、介護支援専門員は業務を広く捉えており、対象に寄り添っており、Community based careはかなり住民に浸透してきていた。認知症は多様な症状や行動があることから、悪化防止や対応方法まで包含することは難しく、医療との連携が重要であると考えた。そこで地域包括ケアシステムの中で介護と医療を統合していくために、Integrated careの規範として、パーソン・センタード・ケアが重要であると考えた。認知症の本人や家族介護者が1人の人として尊重されるために、規範をもった研修や事例検討会などによって広く発信することが重要であると考えられた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to identify seamless medical and nursing care practices with an Integrated Care perspective. Due to the coronary disaster, intervention programs for the elderly were difficult. First, we wrote and published a book, "Dementia: Experiences and Innovations of Families who Care for the Elderly". Second, I presented that care support specialists have a greater role to play in the community in providing support because they have a higher literacy in knowledge than family caregivers. From there, we conducted training and research on understanding and implementing person-centered care practices for nurses and CMs. The ability to practice person-centered care was significantly related to attending training and participating in case study meetings. The study also reported that attending the training increased the ability to practice.

研究分野：在宅看護学

キーワード：認知症 integrated care パーソン・センタード・ケア ケアマネジャー 家族介護者 介護者支援

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本では2015年に地域包括ケアシステム (Community based integrated care) が始まり、認知症対策として新オレンジプランが策定された。日本の認知症対策は、Community based care とともにIntegrated careの視点をもった支援でしか乗り切れないといわれている¹⁾。

Integrated careとは、ヘルスシステムデザインのひとつであり、医療と介護の切れ目のない統合ケアを迅速かつ円滑に受けられることを指すといわれている²⁾³⁾。

欧米では、介護者及び家族は価値を重んじられ、意向が尊重される対策が取られ認知症本人と介護者がケア計画を自分たちで管理できるように法制化されている。認知症の人と家族が、認知症について全体像を「見える化」によりイメージすることと、価値を尊重され、尊厳と生活の質の権利が担保されることが重要であると考えた。そのことが多機関・多職種とのつながり、地域包括ケアシステムのIntegrated careの考え方に近づくのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、Integrated care の視点をもった医療と介護の切れ目のない支援を実践していくために、家族介護者支援プログラムを実施、効果検証することであった。2020 年始まったコロナ禍により、高齢者への介入プログラム実施は難しかったが、下記 1)~3)を実施したので報告する。

- 1) 認知症の人の家族介護者向けに全体像が見える著書を執筆出版し、教材として活用する。
- 2) 認知症の人の家族介護者と身近で支援している介護支援専門員 (以下、「CM」とする) とのヘルスリテラシーの違いを明らかにすることを目的とした。認知症本人、家族介護者との介入等によって、が医療と介護の切れ目のない統合ケアを実施していくためには、それぞれの職種の「規範」の統合が重要であると考えた。そこで認知症の人と家族に対する「パーソン・センタード・ケア (以下、「PCC」)」でのアプローチを広めていくことが必要ではないかと考えた。
- 3) 認知症の人と家族支援者の価値観を尊重するために、病棟看護師、訪問看護師、介護支援専門員を対象としたPCCに関する研修」を開催し、実態とともに介入効果を明らかにすることを目的として研究を行った。

3. 研究の方法

- 1) 著書 (テキスト) 2022 年 4 月「認知症 よりそう家族の経験と工夫」の出版
認知症の人の病期全体像が家族介護者に見えるように工夫した著書を執筆した。
- 2) 認知症の人の家族介護者の情報ニーズとヘルスリテラシーに関する調査 家族介護者と CM の比較
対象は、家族介護者と CM である。CM に 2020 年 1 月~3 月に研修会および郵送で配布し、A 市 CM に依頼した調査数は 279 人のうち 125 人からの返却 (回収率 56.9%)、家族介護者は 139 人中 55 人から返却 (回収率 41.0%) があり、データのそろった 52 人を対象とした。いずれも自記式無記名の郵送方式であった。内容は、情報ニーズと HLS であり、HLS は、Suka らによって開発されたヘルスリテラシー尺度を改編して用いた。倫理的配慮は、福岡大学医の倫理委員会の承認を得て実施した。
- 3) 支援者における「PCC に関する研修」の開催時実態と介入効果
令和 4 年 12 月から 2 月まで、現在働いている病棟看護師 700 人、訪問看護師 380 人、CM401 人に認知症高齢者に対する PCC の理解と実践に関するアンケートと PCC 研修会をテキストを

用いて、オンラインで介入研究を行った。郵送方式でリクルートし、同時にアンケート調査を行った。また参加した病棟看護師には研修後のアンケート調査も行った。倫理的配慮は、福岡大学医の倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究の成果

1) 「認知症 よりそう家族の経験と工夫」を学術研究出版社より出版⁴⁾

800 冊増刷し、家族支援プログラム参加者、認知症の人と家族の会会員、福岡市民生委員、社会福祉協議会校区委員、 に参加した病棟看護師、訪問看護師、CM に配布して評価を得た。評価の一部として家族介護者から、「家族の声や体験を知るエピソードが多く改めて日頃のかかわり方について考える良い機会になった」。支援者から「家族の抱える葛藤や受容の難しさを感じることができた。患者さんの声が大変貴重だった」「多くの方に読んでいただきたい」「想像以上に毎日の生活に工夫されているのだと実感した」肯定的な評価を得ることができた。

2) 認知症の人の家族介護者の情報ニーズとヘルスリテラシーに関する調査 家族介護者と CM の比較⁵⁾

A 市 CM に依頼した調査数は 279 人であり、125 人からの返却 (回収率 56.9%)、家族介護者は 139 人中 55 人から返却(回収率 41.0%)があり、データのそろった 52 人を対象とした。情報ニーズでは「認知症の悪化防止」の項目で家族介護者が 23 人(44.2%)、CM が 31 人(24.8%)であった(P=0.05)。HLS では、情報の意味を理解し、応用できる相互作用的リテラシーは、家族介護者平均 0.92 点、CM 平均 3.44 点(P=0.002)と CM が高く、情報を客観的に吟味し、自分の力に変えていく批判的リテラシーは、家族介護者平均 9.0 点、CM 平均 11.3 点(P=0.000)と CM が高かった。家族介護者より CM ははるかに知識に関するリテラシーが高く、影響は大きいと思われ、CM の役割が大きいことを発表した。

認知症の人を介護するにあたり、情報の取得先は介護支援専門員であり、困った時の相談先も介護支援専門員が多かった。介護に関する情報ニーズは、「認知症の悪化防止の対策」28 人(68.3%)、「本人への家族の対処方法」27 人(65.9%)と多くが認知症本人に関することであった。介護保険法下での介護支援専門員の業務は、要介護者等からの相談に応じ、要介護者等が自立した日常生活を営むのに必要な援助の一貫として、サービスとの連携調整等を行う者とされている。要介護者が住み慣れた地域で生活を継続していくためには、地域で活動している介護支援専門員が携わることによる影響が大きいと考えた。

介護支援専門員が自身の業務を広く捉えており、寄り添おうとする努力であることが考えられた。しかし、日々症状や行動が変わっていく認知症は、介護支援専門員が悪化防止の方法や対処方法まで期待され、包含することは難しく、医療との連携が重要になってくると考えた。

3) 支援者への「PCC に関する研修」の開催時実態と介入効果

(1) 支援者における「PCC に関する研修」の実態調査⁶⁾

認知症調査票回収は、病棟看護師 37 人、訪問看護師 21 人、CM35 人の 93 人であった。男性 8 人女性 85 人、40 代以上が 75%、勤務年数平均 13.8±1.1 年であった。50 歳以上 CM32 人(89.5%)に対し、訪問看護師は 19 人(90.5%)と変わらないものの、病棟看護師では 20 人(54.0%)と少なかった(P<0.002)。認知症の研修を受講有りでは、病棟看護師 37 人(100%)、CM32 人(91.4%)、訪問看護師 17 人(81.0%)であった。職場で事例検討会が有りでは、病棟看護師 28 人(75.7%)、CM14 人(40.0%)、訪問看護師 6 人(28.6%)であった (P<0.001)。3 職種間で知識尺

度、PCC 看護実践自己効力感の違いをみたが、いずれも有意な差はみられなかった。さらに PCC 看護実践自己効力感を従属変数とした解析を行った。職種別、年齢別、性別、経験年数別、介護経験有無では有意な差はみられなかったが、認知症研修会受講有無と事例検討会有無で有意な差がみられた。認知症研修受講有り群は、「療養中のケア全体」が 3.9 ± 0.94 点 ($P=0.002$)、「療養や生活の変化による混乱を緩和する」が 3.8 ± 1.03 点 ($P=0.008$)、「認知機能・身体機能障害の悪化を予防する」で 3.7 ± 0.98 点 ($P<0.001$) であり、認知症研修受講無し群と比較して有意に高かった。次に事例検討会有り群は、「療養中のケア全体」が 41.0 ± 1.01 点 ($P=0.027$)、「認知機能・身体機能障害の悪化を予防する」で 3.4 ± 0.70 点 ($P<0.001$)、「認知機能昨日障害を持つ高齢者の家族に対するケア」で 4.0 ± 1.04 点 ($P=0.006$)、「本人の視点を重視したケア」で 4.2 ± 1.06 点 ($P<0.000$) であり、事例検討会無し群と比較して有意に高かった。

認知症の支援者側による PCC については、認知症研修を受講することや事例検討会をすることによってより理解が深まり、実践へとつながると考えられた。

(2) 病棟看護師への「PCC に関する研修」への介入効果⁷⁾

A 県の急性期病院の病棟看護師を対象に、PCC に関する 3 回の研修を実施し、研修前後に看護実践力、認知症の人に対する態度、認知症機能障害高齢者に対する看護実践自己効力感、認知症に関する知識を比較した。研修参加者は 17 名 (年齢は 32 ± 9 歳、女性 100%)。研修前に比べて研修後は、看護実践力は有意に高くなり ($p = 0.044$)、認知症の人に対する態度は否定的態度が有意に低下していた ($p = 0.042$)。しかし、看護実践自己効力感と認知症に関する知識は研修前後で有意差はなかった。オンライン研修は認知症ケア向上に寄与することが示唆されたが、効果は限定的であった。今後も認知症高齢者ケア向上のための研修を含めた対策が必要と思われる。PCC に関する研修への感想では、「今回の研修が自身の日頃の姿勢を点検しメンテナンスが常に必要と思った」「認知症患者の安全安心な療養や人を尊重するという態度を見直すきっかけとなった」など 評価を得ることができた。

以上 1)~3)の研究により、認知症の本人、家族介護者、そして病棟看護師、訪問看護師、CM 等の支援者への調査、介入研究を通して、地域包括ケアシステムの中で、保健と福祉に関する Community-based care はかなり住民に浸透してきていた。日々症状や行動が変わっていく認知症では、悪化防止の対処方法までにとどまらず、その人らしく尊重された援助を受けるためには、医療と介護の連携は不可欠である。integrated care は今後ますます重要であり、そのためには基盤として PCC を実施することによって「その人らしさ」を維持、尊重していくことができるのではないかと考えた。今後、認知症の人や家族介護者はもちろん、保健医療福祉職やそして地域の一般住民にも向けて発信していきたい。

引用文献

1)筒井孝子.地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略-integrated careの理論とその応用

2)遠藤久雄.超高齢国家日本における医療と介護の現状と課題.第22回厚生政策セミナー.厚生労働省

<https://www.youtube.com/watch?v=JyL5J1N4o7w>

3)大野賀政昭他.日本における医療介護連携の課題と展望-

integrated care の理論をもとに 保健医療科学 206;65(2):127-1351)

- 4) 馬場みちえ、坪井義夫、尾之内直美、山本八千代. 認知症 家族介護者の知恵と工夫
学研研究出版. 2022
- 5) 馬場みちえ、上野珠未、大城知子、牧香里、隈本寛子、山本八千代. 認知症の人の家族介護者とケアマネジャーにおける情報ニーズとヘルスリテラシーに関する調査. 第 40 回日本看護科学学会 2020
- 6) 馬場みちえ、山本八千代、久木原博子、大倉美鶴、牧香里、上野珠未. 認知症高齢者にかかわる専門職による PCC ケア実践における自己効力感との関連要因. 第 11 回ニューロサイエンス看護学会 2024
- 7) 久木原博子、馬場みちえ、山本八千代、中島史子. 病棟看護師を対象とした認知症高齢者ケア向上のためのオンラインによるパーソン・センタード・ケア研修の効果. キャリアと看護研究 2024 ; 第 13 巻第 1 号 : PP.12 ~ 18

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 久木原博子、馬場みちえ、上野珠未、牧香里、中島史子	4. 巻 3
2. 論文標題 一般病棟・急性期病棟で勤務する看護師の認知症高齢者に対する態度およびパーソン・センタードケア実践に関連する要因	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 高齢者ケア実践学研究会	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 馬場みちえ、牧香里、上野珠未、大倉美鶴	4. 巻 2
2. 論文標題 認知症の人の家族支援プログラムの有効性と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 高齢者ケア実践学研究会	6. 最初と最後の頁 30,36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 久木原博子、馬場みちえ、山本八千代、中島史子	4. 巻 13
2. 論文標題 病棟看護師を対象とした認知症高齢者ケア向上のためのオンラインによるパーソン・センタード・ケア研修の効果	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 キャリアと看護研究	6. 最初と最後の頁 12,18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 馬場みちえ、牧香里、大倉美鶴	4. 巻 1(1)
2. 論文標題 認知症初期の人の家族介護者からみた情報取得とケアマネジャーへの要望	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高齢者ケア実践学研究会	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場みちえ、光根美保、牧香里、上野珠未、隈本寛子、宮林郁子	4. 巻 23(2)
2. 論文標題 地域包括ケアシステム (Community-based integrated care) において医療ケアが必要な高齢者への支援－ プライマリー診療看護師の取り組み－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 50,55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場みちえ、牧香里、上野珠未、隈本寛子	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 認知症の人の介護者支援－integrated careの視点からの検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子どもと女性の虐待看護学研究	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 馬場みちえ、山本八千代、久木原博子、大倉美鶴、牧香里、上野珠未
2. 発表標題 認知症高齢者にかかわる専門職によるPCCケア実践における自己効力感との関連要因
3. 学会等名 第11回ニューロサイエンス看護学
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Kukihara Hiroko, Baba Michie, MakiKaori, Nakashima Fumiko, Ando Michiyo
2. 発表標題 Japan nurses' attitudes towards older people with dementia in general and acute care wards
3. 学会等名 5th International Caring Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 馬場みちえ、久木原博子、大倉美鶴、山本八千代、牧香里、上野珠未
2. 発表標題 在宅の認知症高齢者への看護・介護 支援実践上の自信と離職希望との関連
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kukihara Hiroko, Baba Michie, Maki Kaori, Nakashima Fumiko, Ando Michiyo
2. 発表標題 Japan nurses' attitudes towards older people with dementia in general and acute care wards
3. 学会等名 5th International Caring Conference
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 馬場みちえ、大倉美鶴、山本八千代
2. 発表標題 認知症初期の人の家族介護者に向けた支援プログラムの介護者評価
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Baba M, Yamamoto Y, Okura M, Ueno T, Maki K, Tsuboi Y
2. 発表標題 Changes in the Coping Strategies of Families Caring for People with Dementia after an Education Program
3. 学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Okura M, Baba M, Yamamoto Y, Ueno T, Maki K, Tsuboi Y
2. 発表標題 Interventional Effects of an Education Program to Reduce Caregiving Burdens on Families Caring for People with Dementia
3. 学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 馬場みちえ、山本八千代、上野珠未
2. 発表標題 認知症の人の家族介護者からみた情報取得ニーズとケアマネジャーへの支援の要望
3. 学会等名 日本健康支援学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大城知子、馬場みちえ、上野珠未、牧香里、隈本寛子、山本八千代
2. 発表標題 認知症の人と家族介護者のヘルスリテラシーに関する調査
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上野珠未、馬場みちえ、牧香里、大城知子、隈本寛子、山本八千代
2. 発表標題 認知症の人と家族介護者の情報ニーズとヘルスリテラシーに関するケアマネジャー調査
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場みちえ、上野珠未、大城知子、牧香里、隈本寛子、山本八千代
2. 発表標題 認知症の人と家族介護者とケアマネージャーにおける情報ニーズとヘルスリテラシーに関する調査
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本八千代、馬場 みちえ、牧香里、上野 珠未
2. 発表標題 認知症初期の人の家族介護者支援に向けた介護負担とニーズに関する検討(第2報) 家族からみた介護者支援のニーズ
3. 学会等名 日本健康支援学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場みちえ、隈本寛子、上野珠未
2. 発表標題 認知症初期の人の家族介護者支援に向けた介護負担とニーズに関する検討(第1報) 家族介護者における介護負担の関連要因
3. 学会等名 日本健康支援学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 牧香里、馬場みちえ、上野珠未、隈本寛子
2. 発表標題 認知症初期の人の家族介護者における介護支援専門員の支援への思い
3. 学会等名 日本看護研究学会九州・沖縄地方会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場みちえ、山本八千代
2. 発表標題 パーソンセンタードケアアプローチを用いた認知症の人の家族支援
3. 学会等名 日本看護倫理学会第13回年次大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 馬場みちえ、坪井義夫、尾之内直美、山本八千代	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学術研究出版	5. 総ページ数 140
3. 書名 認知症 家族介護者の知恵と工夫	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 八千代 (Yamamoto Yachiyo) (10295149)	安田女子大学・看護学部・教授 (35408)	
研究分担者	有馬 久富 (Arima Hisatomi) (20437784)	福岡大学・医学部・教授 (37111)	
研究分担者	大城 知子 (Oshiro Tomoko) (50461538)	九州大学・医学研究院・共同研究員 (17102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	牧 香里 (Maki Kaori) (70280261)	福岡大学・医学部・講師 (37111)	
研究分担者	大倉 美鶴 (Okura Mitsuru) (70364172)	日本赤十字北海道看護大学・看護学部・教授 (30120)	
研究分担者	坪井 義夫 (Tuboi Yoshio) (90291822)	福岡大学・医学部・教授 (37111)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関